



大阪部会(第 51 回)

日 時: 2016 年 11 月 12 日(土) 18:00~20:00

場 所: 同志社大学大阪サテライトキャンパス

【内容要旨】 第 51 回の大阪部会の出席者は 13 名。

(1)まず、野間(同志社大学)から、最近の経済教育ネットワークの活動が報告された。部会は、9月に名古屋、札幌、大阪で、10月に東京で開かれた。11月は、今日の大阪部会のあと、東京、名古屋で開かれることになっている。そのあとには「冬の経済教室」が、12月に東京(慶応大学)で、1月に札幌(札幌教育大学サテライト教室)で開かれることが紹介された。3月25日に京都(京都学園大学)で開催される年次大会シンポジウムの内容は、「主権者教育:経済の視点から」をテーマに、現在検討中であり、大阪部会のメンバーからもいくつかの要望や意見が出された。

(2)次に大塚雅之氏(三国ヶ丘高校)から、高校政経の社会保障制度に関する授業実践が報告された。社会保障のしくみや日本の制度などを学んだ後に、社会保障制度を多面的に分析し、いくつかのトレードオフの状況を実感させることを目的とした授業である。まず社会保障関連の5つの資料を学習し、若者、高齢者、専業主婦など、様々な立場によって、社会保障制度やその財源である税制が、異なる意味をもつことを理解し、その上で、6つの政策選択肢の中から2つを選択させている。その際、政策選択において重視する「観点」をグループで議論し、それぞれの観点到にウエイトをつけ、それに従って政策を評価し選択に至る過程を体験させている。この授業案では、ペアワーク、グループワーク、それに加えてジグソー学習の要素も、もり込まれている。部会出席者からは、そもそも社会保障制度がなぜ必要なのかをどう理解させるかという点や、社会保障制度に限らず世の中の仕組みに対してどのように現実感を持たせるかという点などが、課題として提起された。

(3)西浦修太氏(京都府立木津高校)から、高校現代社会の経済関係の単元での学習指導案が紹介された。内容は、家計と企業と政府の経済循環や需要と供給など教科書にそったものであるが、国税庁宇治税務署の「租税教室」との連携授業であり、百万円や一千万円の模擬札束を使って関心をつかみ、ワークシートでの書き込み作業を使って、生徒の学習意欲を高めるなどの工夫が凝らされている。

(4)つづいて久保田賀壽雄氏(木津高校)からは、現代社会の金融政策単元の学習指導案が紹介された。現金通貨と預金通貨、準備預金制度と準備率の役割、信用創造と乗数計算などを学習内容とし、西浦氏と同じく「租税教室」と連携して、授業内で模擬札束を教材として活用している。野間からは、貨幣乗数の実際の値を紹介し、バブル期と現代の違いやその原因を説明した。加えて、日本においては預金準備率が1991年以降変更されておらず、金融政策手段としては使われてないことなどを紹介した。

(5)李洪俊氏(長吉中学校)から、2016年の公立高校入試問題についての分析報告があった。2015年度にみられた効率と校正、対立と合意に関する入試問題が激減したこと、具体的な生活に関する問



題が増えたこと、教室での言語活動強化にあわせて文章で書かせる問題が非常に増えてきていることなど、興味深い指摘があった。

(文責 野間敏克)

次回開催予定： 2017年2月18日(土)、時間は18:00~20:00、場所は未定。